

令和4年度「府民躍動 雇用応援★夢プラン」推進会議（令和4年12月27日）

令和4年12月27日、令和4年度「府民躍動 雇用応援★夢プラン」推進会議が開催され、令和4年度までの取組状況、5年度の雇用政策の方向等について意見交換が行われました。

日時

令和4年12月27日（火） 午前10時～12時

場所

WEB会議

出席者

久本座長

宗田委員、原委員、上田委員、永田委員、秦委員、原田委員、中谷委員

オブザーバー：宮田氏、岡田氏

（以上10名）

議事等

令和4年度取組状況、令和5年度雇用政策の方向等について

主な意見等

【最近の雇用情勢、京都府就業支援・人材確保計画の実績について】

- ・特に観光、宿泊・飲食業において深刻な人手不足であり、新たな人材育成戦略として、京都らしい外国人労働者育成のプログラムが必要。
- ・前計画については、ほぼ超過達成であり政策的にも非常に上手くいった一方で、今後は人手不足に対応した政策が必要。
- ・北部での人材確保ができておらず、中小企業は厳しい状況にある。
- ・京都ジョブパークのホームページにおいて、ハローワークの職業訓練など京都府以外の制度を紹介しているページを分かりやすくして欲しい。
- ・府内企業に関する学生の知識が不足していると語る経営者が多いが、企業側から若者を引きつける施策が足りないように思う。
- ・先進国における失業率と経済成長率は、実はそんなに相関していない。これは雇用の流動性がある程度ないと成長産業に移っていけないという実態を意味する。

【令和4年度上半期の取組状況について】

- ・正規雇用については、人手不足の中でジョブパーク等に行かずに、様々なツー

ルを利用して正社員になる人が増えているのではないか。

- ・インターンシップ参加者数について、大学など様々なルートでのインターンシップが増えているが、府内企業と学生とのマッチングを強めるという意味では、府内企業就職率にも関連することからも重要。
- ・インターンシップが最近変わってきている。コロナ禍での変化と、採用の手段に利用できるようになったことで高度化し、東京や大阪の大手企業が学生の囲い込みに入っている。
- ・府内大学生の府内企業就職率を上げようと思ったら、府の施策として積極的にインターンシップをやらなければならない。
- ・大学でやっているインターンシップでは、企業がたくさん申し込んでくるので、かなり選別をして非常に丁寧なインターンシップをやる企業が選ばれており、学生に対して教員も企業も細かく指導している。

【令和5年度の雇用政策の方向について】

- ・子育て支援については、企業経営者の意識改革を府としてどう進めるかが重要。
- ・地元でも京都ではなく東京で求人している企業もあり、U I J ターンの人たちが就職している。人材を全国からどう集めてくるかという戦略が必要。
- ・京都府内の大学に来ているから京都府に就職するということから脱して、京都の良さをアピールし、どうすれば京都で働きたい人が増えるかという戦略に変えることも必要。
- ・学生はいかに働き続けられるかを就職のポイントにする。働き続けられるイメージを作ることは重要で、企業に動いてもらわないといけない。
- ・民間企業が収益事業として行うものや大学が単独で実施できるものとは重ならない、障害者雇用など社会的弱者の支援を優先した事業に予算を付けていただきたい。
- ・今は事務職でエクセルやワードが使えるだけでは就職できない時代なので、もう少し高度な技術や資格が無料や格安で取得できるような、経済的に困っている方の支援を充実していただきたい。
- ・シングルマザーについて、金銭面や子どもを抱えている面から、リスクリングの機会がないのでどうやって公的に支援していくかが大事。
- ・休むこととフルタイム勤務の中間形態というのが重要な時代になってきている。多様な働き方でフレキシブルな労働者の需要に応えていくのは大事。
- ・高校生の離職後に復帰に向けての対応が重要なので、ジョブパークでの高校生に対する取組を続けていただきたい。